



# 三行世界



浪野



## 001

閉じ込めるのは  
君の手首の白さに眩暈を覚えた  
壊れそうな俺の理性だろう

## 002

振り返る体を抱きかかえて  
その首筋に何度も接吻で  
冷蔵庫の陰に二人隠れた午後

## 003

私に何度もジャムを塗り付け  
愛してると囁く君の額に  
嘘付きと呟けば舞う苺の香り





## 004

金平糖の入った瓶を  
壁に投げぶつけてみる  
小宇宙が中空に飛び散った

## 005

混ざる吐息にぬらつく口唇  
汗で光る二人の肌はまるで  
夜の紺青に浮かぶランタンのよう

## 006

飲み下すように食った酸素は  
氷柱のように冷たくのどに突き刺さり  
人のいない駐車場で声もなく叫んだ





## 007

小雨降る霧の中  
男鹿と散歩するあなたに向けて  
おはようと手を挙げるの

## 008

見つけて欲しいと泣くかわりに  
見つけてやるよと拳を突き上げる  
背伸びするにはまだ早い季節

## 009

猫足のバスタブの中に隠れる  
全ての明るく眩しいものから  
あなたの輝く瞳の奥から





## 010

こんにちはこんばんは  
おはようおやすみ  
ありがとうさようなら、世界

## 011

夢に出てきたあの人は  
今なお遠い彼の地にて  
私を呪い続けているのか

## 012

とかげが自ら尾を切るように  
僕も切り落としていきたい  
涙を気持ちに縫う指を





## 013

鼻先をくすぐる甘い香りに  
誘われるように歩いた道の先  
微睡む猫と金木犀

## 014

多幸福感に縁取られ  
ベランダのパキラの葉が  
煌めきはじめる午後二時前

## 015

埃に薄汚れた窓が  
光を踊らせては  
現実を霞ませる、冬





## 016

口唇を伝い鎖骨に落ち  
首筋にも這うそれは  
まるで赤い花のよう

## 017

掌から零れ溢れて  
僕のことを翻弄する  
ねえ、気は済んだかい？

## 018

足音が遠ざかって行く  
携帯電話はあの日から震えぬまま  
君は何処へ、君は何処へ





## 019

君の口唇を濡らす  
透明なその雫を  
僕の指先で転がす

## 020

心臓を一突きにするような  
見えない触れないそれは  
脳裏に焼き付く白い言葉

## 021

あふれる気持ちは七色  
全て食い尽くして尚輝く  
虹色の鼓動





## 022

なにもかも捨てた  
まるごと全部捨てた先に  
両腕広げた笑顔の君

## 023

不意に降る感情  
ああそうか、気付いてないのは  
自分だけ、だった

## 024

塩胡椒で味付け  
バターがとろけたら  
傷を隠し味にどうぞ





## 025

背中にもたれるあなたの  
ちっぽけ過ぎる温もりが  
体に染み込み涙になった

## 026

汗が薄く肌を伝い  
てらてらとした光を纏うあなたは  
なまめかしい真珠そのもの

## 027

汗が薄く肌を伝い  
てらてらとした光を纏うあなたは  
なまめかしい真珠そのもの





## 028

香ばしさが鼻をくすぐり  
鼈甲色の扉へ呼び込まれそうになるが  
我にかえり、途方に暮れる

## 029

言葉に詰まると  
荒れた口唇で煙草をふかし  
全てを煙に巻く卑怯な目

## 030

内側にひっそりと育てた思いが  
牙を剥くような月夜にひとり座り  
高台からの身投げに駆られる





## 031

ねえ見つからないと思った？  
私を通して見る別の影に  
気付かないとでも？ ねえ思ったの？

## 032

ばかにすんな！ と殴り飛ばした相手の  
しよげて陰の落ちた顔を見遣る  
ああ、自分が、いる

## 033

抱きしめたくて潰してやりたくて  
蹴り飛ばして頭を撫でてやりたい  
これは、間違いなのだろうか





## 034

きらきら輝く真珠を一粒  
あなたの瞳にあげましょう  
どうか「こい」に迷わぬように

## 035

鎖を引きちぎりたいんだ、今すぐに  
けど力が足りない、圧倒的に  
ねえお願い、チョコを頂戴、赤いやつを

## 036

缶珈琲の甘さが喉を焼く  
吸い込んだ煙が苦い  
まっすぐな瞳が眩しくて、泣けてくる





## 037

橙に染まる公園で自分の影を見やる  
童話のように、あなたも動けば  
いいお友達になれたかもしれないのにね

## 038

煙草ふかして  
ベッドでゆらゆら  
あー、君の名前なんだっけ？





素材協力  
花花素材集@井上のきあ

